

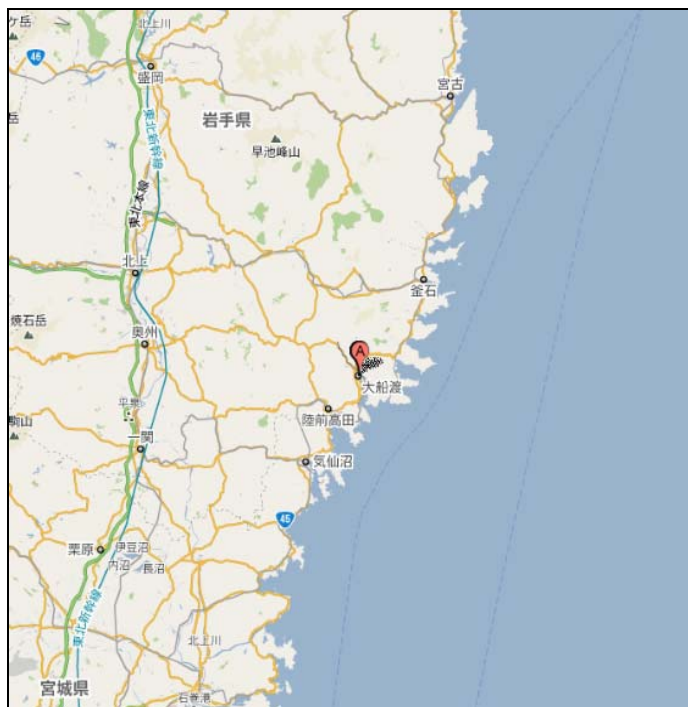
2011年7月5日

大船渡市災害ボランティア報告メモ

作成：管財課 安原

1. 概要

- ① 活動日程：2011年6月16日（木）～18日（土）
- ② 移動方法：自家用車で高速道路を移動。片道約1000km。  
(高速料金は社会福祉協議会に申請したため無料)
- ③ 活動場所：岩手県大船渡市（大船渡市災害ボランティアセンターを通じて活動）



- ④ 宿泊場所：住田町災害ボランティアセンター住田町基地
- ⑤ 活動メンバー：4名（私、妻、大学の同窓生2名）

2. 活動内容

- ① 6月16日（木）  
活動時間：13時～15時  
活動内容：個人邸宅の床下に害虫対策用の消石灰散布作業
- ② 6月17日（金）  
活動時間：9時～16時  
活動内容：仮設住宅へ生活物資（米、布団、トイレトペーパー等）の配達  
(妻のみ、避難所での食事配膳サポート及び避難所への食糧配達)  
**※作業終了後に、陸前高田市を視察**

③ 6月18日(土)

活動時間：9時～15時

活動内容：個人邸宅の壁、天井撤去および床下水洗作業

(妻のみ、避難所での食事配膳サポート及び避難所への食糧配達)

3. 活動を通じて

① ボランティア作業について

災害ボランティアセンターに作業日前日までに登録しておけば、作業日当日に作業を割り当ててもらえます。基本的に男性は荷物運び等の重労働、女性は食事の配膳等の軽作業となりますが、本人の意志さえあればなんでもやらせてもらえます。

「家の壁、天井撤去作業は素人でもできるのだろうか？」と戸惑いましたが、作業前に市の職員等が作業内容や段取りについて説明してくれるので、素人でも十分に対応できました。

② 大船渡市で出会った方々について

災害ボランティアセンターの方々、津波被害にあったボランティア派遣先のご家族、ボランティアで救援物資を配達した仮設住宅にお住まいのご家族、全員が我々ボランティアメンバーに「ありがとうございます」と感謝の言葉を投げかけてくれました。津波被害にあったご主人は、「俺は今までこんなに人のお世話になったことはない。残り少ない人生は、今回の件で、お世話になった人達へのお礼返しをしたい。」とおっしゃっていました。多くの方々が辛い状況にもかかわらず、感謝の気持ちを大切に、謙虚に前向きに町の復興に全力で取り組まれています。

③ ボランティアニーズについて

ボランティアニーズはいくらでもあります。「阪神淡路大震災と比較すると3分の1程度しかボランティアが被災地に派遣されていない。」と、先日ニュースで報道されていた通り、慢性的に不足しているようです。

大船渡市災害ボランティアセンターへのヒアリングでは、「ボランティアは慢性的に不足している。ボランティアに協力してほしい作業は山ほどある。ここ1年はボランティアを全国から受け入れていこうと考えている。」とのことでした。

4. 本学でできること

今回の活動を踏まえた個人的な見解ですが、義援金寄附、救援物資提供等よりも、本学教職員および学生のボランティア派遣が被災地及び本学ニーズと一番合致すると感じました。詳細については以下に記載します。

① 教職員の現地派遣について

できるだけ多くの教職員が現地に行った方がよいと思います。可能であればボランティアを行い、被災された方々と対話を重ね、映像からは伝わらない被災状況、臭い、粉塵等を体感することが大切だと思います。本学でできることを考えるきっかけになると思います。私自身、現地ボランティアを通じて、「自分に協力できることは何なのか」、「周囲の家族、仲間に東北の現状を少しでも伝えていこう。」と真剣に考えるようになりました。

## ② 学生派遣について

できるだけ多くの学生が現地に行った方がよいと思います。彼らが被災地の現状を体感することで、これからの日本と自分の将来を考えるきっかけを与えることができると思います。彼らの多くが、交通費、交通手段等がネックになり、二の足を踏んでいるようです。その点を学園がバックアップしてあげればよいと思います。

## ③ 現地派遣するうえでのアイデア

### ■立命館作業着を着用してボランティア作業

現地では複数人での作業が多いので、所属を明確にしておく、現地での作業指示がスムーズになる。

### ■ボランティア休暇制度の導入

私の友人は滋賀県庁に勤務しており、ボランティア休暇制度を活用して、現地に来ていた。今回の震災で日本人のボランティア意識の高まりが注目されている。また、USRの観点からも社員のボランティア経験は関心が高まっている。このような情勢を勘案すると、今回の震災を契機に、ボランティア休暇制度について学内で検討してみてもよいのではないかと思う。

### ■現地へのシャトルバス運行

本学ではすでに対応済みなので、被災地および学内ニーズがあれば増便について検討すればよいと思う。

以上



大船渡①



大船渡②

水産加工場？構造体しか残っていない。



大船渡③  
津波被害にあった町並み



大船渡④  
ボランティア作業した邸宅のご家族と



大船渡⑤  
災害ボランティアセンター



大船渡⑥  
災害ボランティアセンター前の避難所



陸前高田①

4階部分まで津波が押し寄せてきたのがわかる



陸前高田②

何百台もの廃車置き場



陸前高田③  
津波被害にあった車



陸前高田④  
津波被害にあった建屋



陸前高田⑤  
津波被害にあった建屋



陸前高田⑥  
津波被害にあった町並み



住田町災害ボランティアセンター  
毎日寝泊まりした施設



大船渡⑦  
ボランティアで天井と壁を撤去した邸宅